

事業名 「トップジュニア競技力向上事業」

沖縄県テニス協会

平良 和己

沖縄県テニス協会における企画提案型競技力向上対策事業は平成 25 年度に選定され、本年度で 3 年目の最終年度になります。沖縄県テニス協会では国民体育大会での上位進出が可能であろう少年女子に特化した強化を行ってまいりました。2 年目の昨年に県勢 19 年ぶりの 2 位という成果を達成し、本年度は昨年以上の優勝を目指し強化してまいりましたので報告させていただきます。

本年度の第 70 回国民体育大会紀の国和歌山国体ですが、テニス競技少年女子出場選手は昨年と同じ、リュウ理沙マリー、下地奈奈の 2 人が予選会を勝ち抜き代表権を獲得しました。本年度の大会は昨年度のような台風の影響もなく、天候にも恵まれスムーズにコンディションを整えることができ、万全のかたちで臨むことができました。その結果、県勢 20 年ぶりとなる優勝を勝ち取ることができました。

昨年もお話ししましたが、少年女子のこの世代は県内で近年まれにみる中学生時に九州や全国で活躍しているのが複数いました。この世代が高校生になり県外高校への流失を防ぐことができたため、3 年後には国体で優勝するという目標を立てていました。昨年、目標のベスト 4 を上回り、県勢 19 年ぶりに準優勝という予想以上の結果でした。そして、もちろん今年は優勝という目標を掲げました。とはいっても圧倒的な実力があるわけでもありませんし、簡単に達成できるものではありません。正直のところ、まずは最低入賞のベスト 8 をクリアし、そこから一戦一戦勝っていければと思っていました。

テニス競技は No. 1、No. 2 の 2 人の選手を選抜し、シングルス 2 試合、シングルスが 1 勝 1 敗の場合のみ、ダブルスで勝敗を決めます。昨年を振り返ってみますと、一回戦の大阪府戦から相手にあと 1 ポイント取られたら負けという状況からの逆転勝ちから始まり、三回戦、準々決勝、準決勝と強豪相手ではほとんどの試合がダブルスにまでもつれる、体力的にも精神的にも本当にタフな試合ばかりでした。運も味方につけてぎりぎり勝ち抜いた試合でした。しかし、今大会はインターハイの戦績等から第 2 シードを頂き 2 回戦からの登場で、更に決勝までシングルの 2 勝で勝ち進むという理想の展開となりました。No. 1 のリュウはとて調子もよく安定した強さを見せ、全国上位の選手とも対戦しながらも 3 ゲーム以上取られない相手を圧倒した強さを見せました。No. 2 の下地も苦しい場面は何度かありながらも勝負強さをみせ、実績では格上の相手を次々と退けていきました。

先ほども述べましたが、2 回戦からだったのは、国体までの全国高校総体や全日本ジュニアなどでよい実績（リュウがインターハイ個人シングルス 2 位・下地が全日本ジュニア、インターハイ個人シングルスベスト 32）を上げることができ、第 2 シードを与えられ一回戦を戦わなくてよかったこと、この 1 年で二人の選手のレベルが上がったからなのか、決勝戦までシングルス 2 試合で勝ち上がることができたことは体力的温存につながりました。また、決勝戦のダブルスは同一の学校で毎日練習できていたことにより、よりお互いの連携がとれていたこと（ちなみに決勝の相手は違う所属クラブで練習していたため、シングルスのような力は発揮できていなかった）などアドバンテージもあったように思います。

国体までの取り組みとして、以下の取り組みを行ってきました。

- ① まずは年間を通したスケジュールを私はもちろん、チームトレーナー、アドバイザーコーチ、協会スタッフなどと、国内外の大まかな試合スケジュール、県内外の強化練習、トレーニング等のスケジュール、それにかかる費用の計算等を作成しました。
- ② メーカーの援助を受けて、日本テニス協会認定S級エリートコーチの資格をもつコーチに、定期的に県外や県内でご指導いただき、選手や普段指導する私自身も含め、最新の指導と刺激を受けていました。
- ③ 国内強豪大学、高校への練習参加や練習試合等を行いました。
- ④ 国際トーナメントへの参加もしました。国外は経費の安く済むアジア圏内や国内で行われている国際ジュニアサーキットに参加。国内上位選手であるNo.1のリューはプロ選手も出場する国内のプロサーキットへも参加させた。
- ⑤ 年間のスケジュールに合わせたトレーニングをトレーナーに定期的に練習場所に来ていただき、年間を通して戦い抜く体づくりを行いました。

テニスは年間を通して大会が行われているが、メインとなる大会にピークを持ってくるためにこのようなスケジュール管理が大切になってきます。7月、8月にインターハイ等の九州大会・全国大会が集中しており、そこで一度ピークをつくり、また9月末の国体でピークが来るようにしました。

テニス競技は企画提案型競技力向上対策事業による補助を受けており、国体でポイント取得の可能性の高い少年女子に絞り強化してきました。今年が3年間の最終年度になります。

この補助事業により、どの競技にも言えることですが沖縄の選手に一番足りない多くの経験を積ませていただきとても多くの刺激を与えていただきました。

昨年に引き続きジュニアの国内、国外の国際大会等への出場もさせました。海外遠征は、沖縄から直行便がでている中国や、台湾を経由していけるアジア圏にしぼって行くことである程度の金額をおさえることができ、遠征の回数を増やすことができます。3月にもマレーシア、とブルネイに2週間の遠征を行いました。昨年も述べましたが、国際大会への参加は選手としての自覚を得るための1つの手段でもあります。実際の大会会場では日本語が通じないなかエントリーをして、練習相手を探したり、ダブルスパートナーを探したりもしなければならぬ。選手として、自分自身で行動する力が身に付き、選手としての自立につながる。テニスはコート上では誰からのアドバイスも受けることなく自分だけで試合を行わなければならないため、自分自身で行動する力はテニスの試合には必要不可欠な精神的な要素であるのです。栄養面の部分でも日本と違う環境では食事に気を配らなければならないため、自身のコンディションを調整する意識も芽生えます。

No.1のリューに関しましては、ジュニアでは全国的にもトップ選手と互角以上で戦えると判断し、日本のトッププロも参加する国内のシニアの国際サーキットへもチャレンジさせました。プロも参加する国際大会に参加させ、日本のトップ選手と試合をすることにより、ジュニアにはないパワーや巧みな技術、戦術に触れることで更なるレベルアップを求めました。はじめは歯が立ちませんでしたでしたが、少しずつ対応し勝てるようになり世界ランキングのポイント（WTAポイント）も獲得。世界ランキングも取得（850位）し大きな自信になったとおもいます。

錦織選手などのプロ選手が活躍しているウィンブルドン等の世界4大会がありますが、その大会に出場するためには下部の大会でポイントを獲得し、上位の大会に出場していかなければなりません。そして、これと同じ仕組みがジュニアにもあります。この国際テニス連盟が主催する大会で勝利し、ポイン

トを得ることでその後に繋がる世界4大会のジュニア大会などにも出場することができるので、世界中の選手が集まってくる大会である。

国体の優勝の背景には他の大会での成果も大きく関わっています。

昨年、国体の準優勝後、3月の全国選抜高校テニス大会で団体準優勝、個人3位。8月の全国高校総体では団体ベスト8、個人シングルス準優勝、個人ダブルス優勝など国体前にも多くの成果を上げることができ、大きな自信になっている。

また、インターハイ等の大きな大会は8月で終了し、ほとんどの高校3年生は引退します。今回の2選手が3年生であった為、モチベーションを切らさないように細心の注意を払いました。

海外遠征やナショナルレベルのコーチと一緒に沖縄県の選手強化を行うことにより、実際に指導を受けている選手はもちろん、指導者の成長も図ることができた。今後継続して好成績を収めるためには、沖縄県内のテニスコーチのレベルアップが必要不可欠であるため、今回得たノウハウを沖縄県内のコーチ達に伝えて沖縄全体でのテニス競技力向上につなげていきたいと考えています。

そして継続的に国体でポイントを獲得できることを目指します。

最後に、県体育協会の役員の方々には現地でも多くの声援を頂き、苦しい場面を乗り切ることができました。本当にありがとうございました。

また、県体育協会、沖縄県テニス協会の多くのご支援のお蔭でこのような結果を達成することができました。特に3年前に企画提案型補助事業の対象競技に選んでいただいたことがこのような成果につながりました。大変感謝しております。

今年度で企画提案型競技力向上事業は一端区切りとなるが、来年度以降も募集があれば是非応募させて頂き、選んでいただければ、今回得たノウハウを活かして更なる少年女子の下の世代の強化と、他の種別の強化も図り、帯でポイントが獲得できるようなテニス競技にしていきたいと考えていますので宜しくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました